

平成20年12月3省合同審議会

既存化学物質審査物質  
(人健康影響・生態影響)  
に係る分解性・蓄積性データ

## 既存化学物質安全性点検データ

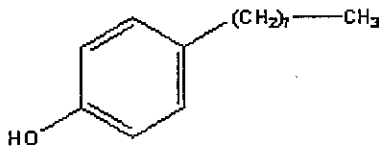
データの説明 分解性,濃縮性

経済産業公報(平成13年1月5日以前は通産省公報)公表内容

公表名称	公表年月日	点検結果
パラオクチルフェノール	昭和53年12月12日	濃縮性が無い又は低いと判断される物質

## 物質情報

構造式



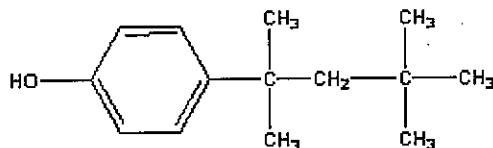
CAS番号	1806-26-4
点検対象物質名称	パラオクチルフェノール

官報公示整理番号	官報公示名称
3-503	モノアルキル(C=3~9)フェノール

政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
1-59	パラオクチルフェノール

## 分解性

構造式



CAS番号	140-66-9
被験物質名称	p-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	2週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD
	0%

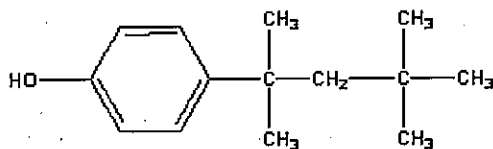
直接測定	GC
	*(-)%

備考

\*分解度が負の値になったため(-)と表記した。

濃縮性

構造式



CAS番号	140-66-9
被験物質名称	p-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
1.05ppm	ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種
標準	8週間	コイ

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	100ppb	113 ~ 469
第2濃度区	10ppb	12 ~ 135

総合検索システムへ  
1806-26-4

[前画面に戻る](#)

## 既存化学物質安全性点検データ

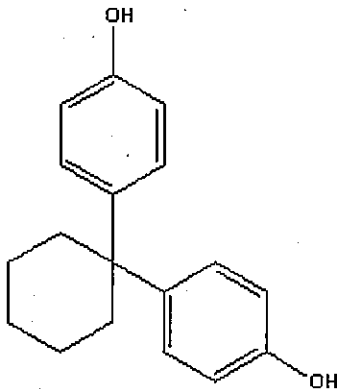
データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報(平成13年1月5日以前は通産省公報)公表内容

公表名称	公表年月日	点検結果
4, 4'-シクロヘキサン-1, 1'-ジイルジフェノール [官報公示整理番号: 4-44] [CAS番号: 843-55-0]	平成19年10月10日	難分解性と判断される物質
4, 4'-シクロヘキサン-1, 1'-ジイルジフェノール [官報公示整理番号: 4-44] [CAS番号: 843-55-0]	平成20年8月12日	難分解性であるが高濃縮性ではないと判断される物質

## 物質情報

構造式



CAS番号	843-55-0
点検対象物質名称	4, 4'-シクロヘキサン-1, 1'-ジイルジフェノール
官報公示整理番号	官報公示名称
4-44	1, 1-ビス(4-ヒドロキシフェニル)-シクロヘキサン

## 分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
------	------	--------	--------

標準	4週間	100mg/L	30mg/L
----	-----	---------	--------

間接 測定	BOD
	-1, 0, -2%

直接 測定	HPLC
	1, 1, 3%

## 濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

LC50値(96hr)	魚種
2.1mg/L	ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)	
			開始前	終了後
標準	28日間	コイ	5.4	5.1

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	0.01mg/L	(BCF <sub>SS</sub> ) 29
第2濃度区	0.001mg/L	<32 ~ 42

総合検索システムへ  
843-55-0

[前画面に戻る](#)

## 既存化学物質安全性点検データ

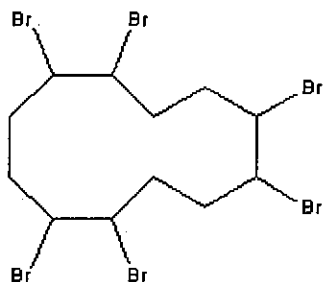
データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報(平成13年1月5日以前は通産省公報)公表内容

公表名称	公表年月日	点検結果
1, 2, 5, 6, 9, 10-ヘキサブロモシクロドデカン [官報公示整理番号:3-2254]	平成14年3月26日	難分解性かつ高濃縮性と判断される物質

## 物質情報

構造式



CAS番号	3194-55-6
点検対象物質名称	1, 2, 5, 6, 9, 10-ヘキサブロモシクロドデカン
官報公示整理番号	官報公示名称
3-2254	臭素化または塩素化環状(7~12員環)炭化水素(Cl又はBr数:4~12)

## 分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100mg/L	30mg/L

間接測定	BOD
	1%

直接測定	HPLC(ピークA)	HPLC(ピークB)
	5%	6%

備考

・被験物質は異性体混合物であり、HPLCにより分離される2本のピークを溶出順にピークA、Bとした。

### 濃縮性

判定	高濃縮性
試験方法	濃縮度試験

LC50値(48hr)	魚種
250mg/L以上	ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	14週間	コイ	3.9

### ピークE

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	144µg/L	118 ~ 418
第2濃度区	14.4µg/L	479 ~ 2030
第3濃度区	2µg/L	(BCF <sub>SS</sub> ) 3380

### 備考

・第3濃度区の試験期間は8週間、脂質含量は3.5%。

### ピークB

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	24µg/L	834 ~ 3070
第2濃度区	2.4µg/L	3390 ~ 16100

### ピークC

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	20.2µg/L	816 ~ 1780
第2濃度区	2.02µg/L	3350 ~ 8950

### 備考

・被験物質は混合物であり、HPLCにより分離される5本のピークを溶出順にA~Eとした。濃縮倍率は、対象物質と分子式が等しいことをMSにより確認したピークB、C、Eについて求めた。